

2023年6月発行

大学院進学ガイドライン (博士後期課程)

 新潟医療福祉大学大学院

目次

出願に向けて

大学院進学に向けた心構えと覚悟	1
出願前の入学相談	2
教育目的	2
3つのポリシー	3
学位論文の評価基準	4
修了要件	4
取得できる学位	4

学位取得に向けて

授業について	6
学位取得までのプロセス	7
学位論文の審査について	8
学位論文審査申請時の提出書類	8
生成 AI 利用に関する注意事項	9

相談窓口

10

出願に向けて

大学院進学に向けた心構えと覚悟

「大学院で学びたい」

そう考えた方が、このガイドラインを手にとっていると思います。

人生 100 年時代において、皆さんがお持ちの『学ぼうとする意志』は、最も大切なことです。本学大学院は、そのような方の進学を心から歓迎し、皆さんの夢の実現を最大限サポートします。ここでは、大学院進学にあたり、心に留めておいていただきたいことを二つ記します。

まず、大学院では、「学問」をしてください。「当たり前だ!」、とお叱りを受けるかもしれません。「学問」の定義は、立場によって様々ですが、私は、「問いを学ぶ、問いで学ぶ」と理解しています。つまり、「自ら問いを立て、問いを解くことで学ぶ」ことが大学院での学びなのです。英文学・言語学者の外山滋比古先生は、著書『思考の整理学』の中で、「人間にはグライダー能力と飛行機能力があり、グライダー兼飛行機のような人間になること」の重要性を指摘しています。グライダーは、空を優雅に滑空しますが、残念なことに、自力で飛ぶことはできません。一方、飛行機は、エンジンを搭載し、空を自由に飛び回ることができます。すなわち、大学院での学びの中では、教えられたことを確実に身に付ける能力（グライダー能力）をもとに、自らが新しいことを創造する能力（飛行機能力）を高めてください。

もう一つは、大学院で学問を志す人間として、四つのことを大切にしてください。これらは、『国家の品格』などの著者である藤原正彦先生が、著書『数学者の言葉では』の中で、学問を志す人の性格条件として挙げていることです。第一に、「知的好奇心を持つこと」です。研究活動をするための大きな原動力になります。行き詰った時こそ、Why?を繰り返してみてください。今まで見えなかったことが、見えてくることがあります。第二に、「野心的であること」です。野心的という言葉は、悪い意味に用いられることがありますが、研究活動では、暗中模索の時間も少なくありません。そんなときには、破壊的なエネルギーが必要であり、野心はその原動力になり得ます。第三に、「執拗であること」です。自らの問いを解く鍵は、解けるまで実践することです。「捲土重来を期す」というように、コツコツと粘り強く継続することが大切です。最後に、「楽観的であること」です。「自分には無理だ、出来ない」と思ったらその時点で終了です。どんな難題でも「どうにかなるかも知れない」、そう思いながら研究活動をしてください。もちろん、すべての物事がどうにかなるものではありませんし、研究結果に落胆することもあります（私も頻繁にあります）。ただ、それは人としての価値を決めるわけではありません。学ぼうとする意志や学ぶ姿勢、そのものに本当の価値があるのです。是非、四つのことを大切にしてください。

繰り返しになりますが、本学大学院は、学ぼうとする意志のある方の進学を心から歓迎し、皆さんの夢の実現を最大限サポートします。皆さんとともに学べる日を楽しみにしています。

新潟医療福祉大学大学院
医療福祉学研究科
研究科長 佐藤大輔

出願前の入学相談

充実した大学院生活・研究活動を送るには、ご自身の研究テーマを深められる環境があるか、指導教員の専門性や教育・研究に対する考え方が合っているかが非常に重要です。必ず、出願前に、指導を希望する教員に相談をし、本学での大学院生活・研究活動のイメージを固めた上で出願するようにしてください。

(相談内容例)

- ・ご自身の研究テーマを深められる環境が本学に整っているか
- ・研究室の特色について
- ・指導を希望する教員の研究内容や、指導方法・指導予定について
- ・研究のすすめ方や論文作成の流れについて
- ・どのように授業が行われるのか
- ・修了までのスケジュール
- ・研究や学位取得が今後のキャリアにどう貢献するか
- ・お仕事との両立について
- ・修学に対して不安に思っていること

(本学では、障がいをお持ちの方への教育的配慮をおこなっております。お気軽にご相談ください。)

指導を希望する教員と連絡を取りたい場合や、指導を希望する教員が決まっていない場合は、大学院入試事務室までお問い合わせください。

大学院入試事務室：grnyuusi@nuhw.ac.jp ※下記を明記の上、お問い合わせください。

- ・氏名、最終学歴
- ・研究テーマについて（これまでの研究や、大学院でおこないたい研究など）
- ・指導を希望する教員（不明の場合は希望する専門領域）

いただいた内容をもとに、面談に関する連絡をいたします。

教育目的

博士後期課程

博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力または高度な専門性を要する職業等に必要能力を養うことを目的とする。(大学院学則第5条3項)

医療福祉学専攻

医療福祉学専攻では、保健・医療・福祉・スポーツに関する深い専門性、多様な専門領域との連携を発展させる力、豊かな人間性と高潔な倫理観に基づく幅広い教養を身に付けることで、めまぐるしく変化する倫理的・法制度的・社会的課題の解決を先導できる教育研究者および高度専門職業人を養成する。

医療福祉学専攻の3つのポリシー

本学では、建学の精神「優れた QOL サポーターの育成」のもと、優れた QOL サポーターに求められる資質・能力を 5 項目あげ、その英語の頭文字をとって「STEPS」と定義しています。

優れた QOL サポーターの 資質・能力【STEPS】		ディプロマ・ポリシー 修了認定方針 以下のような力を身に付けた方に学位を授与します	カリキュラム・ポリシー 教育課程編成方針 以下の方針に従って教育課程を編成し、実施します	アドミッション・ポリシー 入学受け入れ方針 以下のような能力・意欲等を有する学生を求めます
S	Science & Art 科学的知識と技術 を活用する力	保健・医療・福祉・スポーツ領域における最先端の知識を体系的に理解できる。学術的・社会的問題に対し適切な課題を設定し、自らの仮説を適切な手法を用いて検証できる。得られた成果を世界に向けて発信することができる。	専門領域における最先端の知識をもとに仮説を検証し、その成果を世界に向けて発信する力を修得するために、各領域の研究手法や学術論文の評価に関する特論科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準①②③、国際学術論文発表により評価する。	医療福祉学に関する科学的知識と研究手法の基本および世界に向けて情報発信するための基礎的英語力を有する。
T	Teamwork & Leadership チームワークと リーダーシップ	ダイバーシティ(多様性の尊重)の考えを基盤に、異なる領域の専門家間の連携を促進できる。多様な領域の知識と技術を融合させることで、関係する人々の成長を促し、共通の目標達成を導くことができる。	異なる領域の専門家間の連携を通じた成長を促し、目標達成に導く力を修得するために、各領域における様々な研究活動に関与し、研究遂行に関する支援等を学ぶ演習科目を配置する。その成果は、履修科目の成績、学位論文評価基準③④により評価する。	異なる領域の専門家間の連携を促進し、関係する人々の成長と共通の目標達成を導こうとする強い意志を有する。
E	Empowerment 対象者を支援する力	豊かな人間性と高潔な倫理観を有している。関係する人々の価値観・自己決断力・自己決定権を尊重し、適切な支援を発展させることができる。	人間性および倫理観をもとに、対象者に対して適切な支援を発展させる力を修得するために、研究倫理教育プログラム、各領域に関する特殊講義科目を配置する。その成果は、研究倫理教育プログラム、履修科目の成績および学位論文評価基準⑤により評価する。	医療福祉学領域において、対象者の支援をさらに発展させようとする強い意志を有する。
P	Problem-solving 問題を解決する力	幅広い教養と深い専門性を基盤に、学術的・社会的問題の解決策を模索し続けることができる。「理論と実践を往還する」思考を身に付けている。	理論と実践を往還することで、学術的・社会的問題を解決しようとする力を修得するために、各領域に関する演習科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準②④により評価する。	医療福祉学に関する問題を多面的に認識し、解決するために必要な科学的知識および基礎的な研究手法を有する。
S	Self-realization 自己実現意欲	学際的な学術・実践活動の価値を理解し、生涯を通して持続的に自信を成長させることができる。社会的・経済的価値を創出できるとともに、将来を担う人材を育成する意欲を有する。	学術・実践活動によって新たな価値を創出するとともに、将来を担う人材を育成する力を修得するために、各領域に関する演習科目および外部資金獲得等に関する科目を配置する。その成果は、履修科目の成績および学位論文評価基準①～⑥により評価する。	医療福祉学領域における教育研究者として、新たな価値創造や人材育成に対して強い意欲を有する。

学位論文の評価基準

医療福祉学専攻(保健学学位プログラム)では、提出された論文の研究内容が本専攻の学位論文としてふさわしい学術的な意義ならびに新規性、独創性、妥当性、創造性、倫理性等を有しているかを審査し、下記の審査基準を満たした場合に、合格とします。

<審査項目>

- 1 研究課題の学術的意義と位置づけ：これまでの研究動向および先行研究に基づいた課題（仮説）が設定されていること。研究の学術的意義が認められ、その位置づけが述べられていること。
- 2 研究課題の新規性と独創性：研究成果には、博士論文に相応しい新規性や独創性が認められ、医療福祉学領域における学術の発展に寄与する可能性があること。
- 3 研究の妥当性：適切な研究手法が用いられており、研究結果の信頼性があること。研究結果に対する考察・結論が客観的な根拠に基づいており、妥当であること。
- 4 研究課題の創造性と波及効果：得られた研究成果が、当該分野を含む医療福祉学領域における学術の発展や臨床現場への適用性、有用性があること。
- 5 研究倫理：研究倫理が遵守されていること。
- 6 倫理性と形式・体裁：研究全体の論理に一貫性があり、博士論文に相応しい形式でまとめられていること。

修了要件

本大学院に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することが必要です。必要修得単位数は10単位で、特殊講義2単位、特殊演習2単位、特殊研究6単位を必修選択として履修しなければいけません。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、本大学院に1年（在学期間が2年未満で修士課程を修了した場合は3年からその在学期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとします。詳細は大学院・国際交流課にお問い合わせください。

取得できる学位

専攻名	学位
医療福祉学専攻	博士（保健学）

新潟医療福祉大学大学院では

様々な修学制度を用意しております

<3年間で修了できるか心配な方へ：長期履修生制度>

職業があるまたは育児、介護等を行う必要がある等の理由で、標準修業年限（3年間）で修了することが困難である方を対象に長期履修生制度を設けています。周囲の環境や勤務先の事情などがある方が、修業年限を4年、5年または6年に延長ができる制度です。長期履修生は、標準修業年限にとらわれることなく、在学年数を自分のライフスタイルに合わせて計画的に自分のペースで学ぶことができます。

授業料、施設設備費等の学費については、在学年数に応じ分割して納めることとなりますので、年間の負担は軽減されます。（修了までの支払総額は標準修業年限で修了する場合より若干増えることとなります。）

詳細は大学院入試事務室（grnyuusi@nuhw.ac.jp）へお問い合わせください。

学位取得に向けて

授業について

授業時間

時限	授業時間帯	時間
第1時限	9:00~10:30	90分
第2時限	10:40~12:10	90分
昼休み	12:10~13:10	60分
第3時限	13:10~14:40	90分
第4時限	14:50~16:20	90分
第5時限	16:30~18:00	90分
第6時限	18:10~19:40	90分
第7時限	19:50~21:20	90分

本学大学院では、主に平日夜間（第6時限、第7時限）と土日昼間および集中講義で授業をおこなっています。昼間の時間は仕事等をはじめ、授業以外の活動にあてたい方など、学生個々のライフスタイルに合わせた履修が可能となっています。

メディアを利用した授業

本学では、対面による授業とメディアを利用した授業（メディア授業、遠隔授業、オンライン授業などとも言います）を組み合わせたハイブリッド型授業を取り入れています。

メディア授業の主な形式は以下のようになります。

・同時双方向型

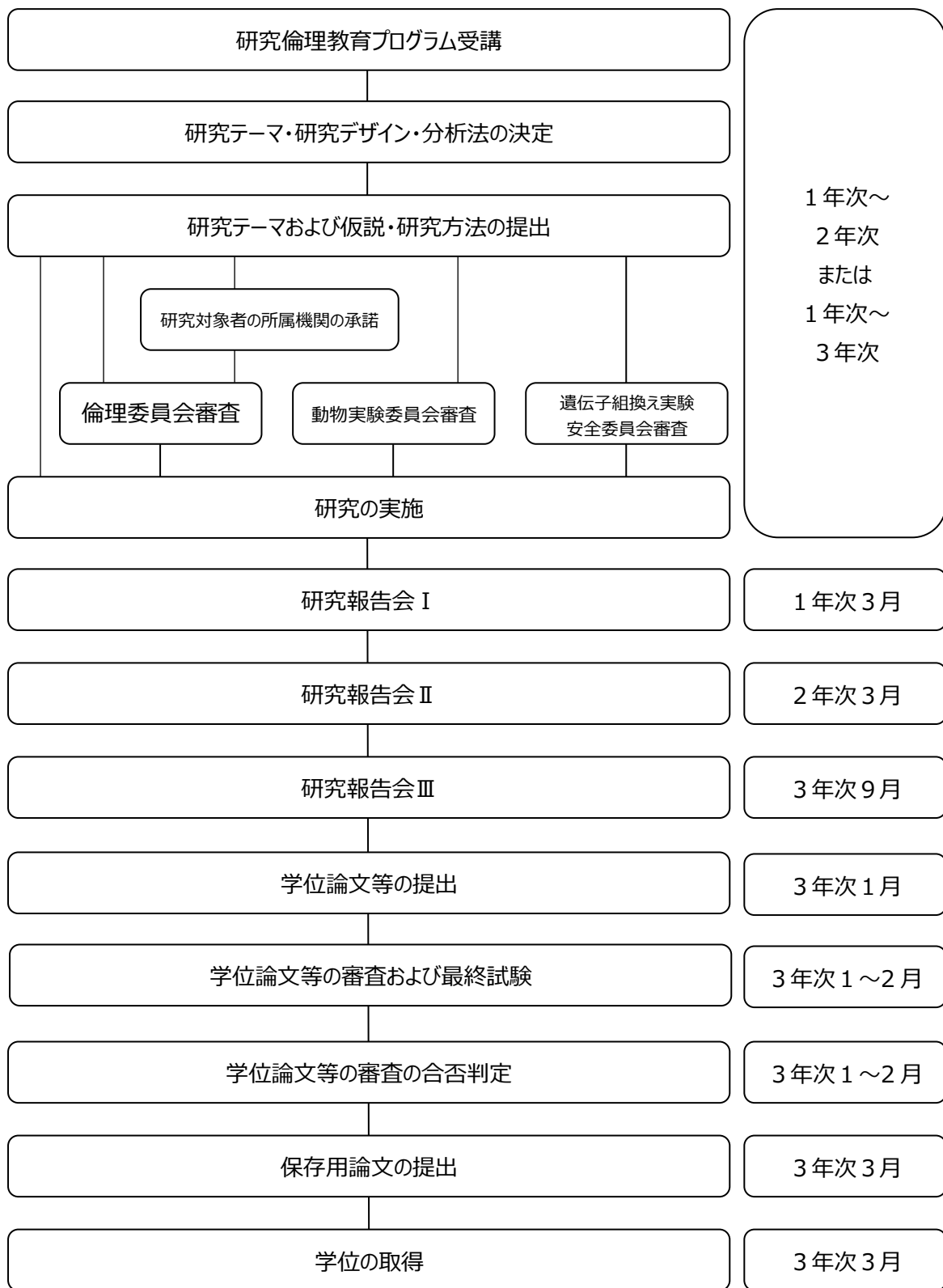
Web会議システム等を用いて、リアルタイムで配信する授業形式です。オンライン上で教員と学生が双方向で繋がり、その場での質疑応答や履修者同士で意見交換をすることができます。

・オンデマンド型

オンライン上で事前に収録された講義動画や資料によって学ぶ授業形式です。本学教務システム等を活用した課題提出、質疑応答ができ、履修者同士の意見交換も可能です。

研究活動などは対面式授業とメディア授業を組み合わせ実施をしています。

学位取得までのプロセス ※4月入学・標準年限（3年）で修了する場合



学位論文の審査について

審査体制

学位論文等の審査を実施するために設置する審査委員会は、主査1名と2名以上の副査で構成されます。なお、主査は、当該専攻における研究指導教員とし、副査は大学院担当教員とします。

審査方法

学位論文等の審査は、以下の方法にて実施され、評価は合格および不合格で行われます。

- 1 博士後期課程の学位論文等の審査は、提出された博士論文ならびにその口頭試問の内容を審査する。その際の基準は、「学位論文の評価基準」を参照する。

審査までのプロセス

- 1 「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics、eL CoRE)」を受講する。
- 2 研究報告会Ⅰにて、学位取得に向けたプロセス・活動、学位論文の進捗および今後の活動計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。
- 3 研究報告会Ⅱにて、学位論文の進捗および提出に向けた計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。
- 4 研究報告会Ⅲにて、学位論文の進捗および提出に向けた計画を報告し、到達度に関する自己評価等を実施する。

学位論文審査申請時の提出書類

- 1 (様式1) 論文審査願
- 2 (様式2) 論文目録
- 3 (様式3) 履歴書
- 4 (様式4) 学位論文採用証明書
- 5 論文採用証明資料 (博士論文)
- 6 論文：1部

審査規程が明記された英文または和文の学術雑誌に掲載または掲載可 (accepted) の証明書がある筆頭原著論文(別刷りあるいはその複写物)であること。英文学術雑誌とは、国際的に高い評価を得ている専門雑誌 (Niigata Society of Health and Welfare 発行英文雑誌を含む) とする。和文学術雑誌の場合は、学位申請者の業績等を勘案し、総合的にその是非を判断する。なお、学位論文となる原著論文は、大学院博士後期課程入学以降に投稿された論文であること。

- 7 (様式5) 論文要旨：1部
 - ① 英文、和文いずれの論文も、要旨は和文で記載する。
 - ② 要旨は指定の書式で2000字以内とする。
 - ③ 要旨の下段には、5個以内のキーワードを添える。

- 8 (様式6) 論文提出許可書
- 9 (様式7) 参考論文採用証明書
- 10 論文採用証明資料(参考論文)
- 11 参考論文: 1部

- ① 学位申請者本人が該当分野で優れた業績をあげたことが判定できる、学術専門誌に掲載または掲載可(accepted)の証明書がある原著論文1編以上とする。なお、1編に限り、入学前に出版されたものも認める。参考論文となる原著論文を掲載する学術専門誌については、博士論文の審査の際に各分野の実状および学位申請者の業績等を勘案し、総合的にその是非を判断する。
- ② 博士論文、参考論文のうち1編以上は英語論文であることとする。

生成 AI 利用に関する注意事項

学位論文等作成

- 1 生成 AI から得た情報は、そのまま使用せずに正確性や正当性を確かめる。
- 2 個人情報等を生成 AI に入力しない。
- 3 生成 AI による文章や画像等のデータをそのまま使用することは著作権侵害や剽窃等につながる可能性があり、研究不正となる危険性があることを認識する。
- 4 論文内で使用する引用について正確な出典を記載する等、「新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 論文作成マニュアル」を遵守する。

学位論文等審査

- 1 主審査委員・副審査委員を担当する大学院担当教員は、上記1で示した注意事項を認識し、学位論文等の審査および最終試験を実施する。
- 2 特に、書下ろし学位論文(修士課程)で提示されている内容は、正確性や正当性を確かめる。

相談窓口

本学大学院では皆さんの悩みや困りごとに寄り添えるよう、相談窓口としてNUHWセーフティーネットを設けております。お困りのことがありましたら、下記相談窓口をご利用ください。大学院生活全体の“つまずき”や“引っかかり”を解決し、安心・安全な大学院生活を“ナッジ（そっと後押し）”します。

セーフティーネット相談窓口

図書館棟 図書館・学習支援センター
講義棟 医務室（健康管理センター）、学生課、就職センター
メール soudan@nuhw.ac.jp

その他問い合わせ窓口

